令和7年第1回太良町議会（定例会第1回）会議録（第5日）						
招集年月日	令和7年3月6日					
招集の場所	太良町議会議場					
開閉会日時及び宣告	開議	令和7年3月18日	9時30分	議長	江口孝二	
	閉会	令和7年3月18日	11時48分	議長	江口孝二	
応（不応） 招議員及び 出席並びに 欠席議員 出席11名 欠席0名	議席番号	氏名	出席等の別	議席番号	氏名	出席等の別
	1番	大 鋸 美 里	出	7番	竹 下 泰 信	出
	2番	森 田 政 則	出	8番	田 川 浩	出
	3番	峰 正 雄	出	9番	所 賀 廣	出
	4番	江 口 孝 二	出	10番	川 下 武 則	出
	5番	山 口 一 生	出	11番	坂 口 久 信	出
	6番	待 永 るい子	出			
会議録署名議員	6番	待永 るい子	7番	竹下 泰信	8番	田川 浩
職務のため議場に出席した者の職氏名	(事務局長) 今 泉 哲 也		(書記) 下 川 慎 二			
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	町 長	永 淵 孝 幸	農林水産課長	片 山 博 文		
	副 町 長	毎 原 哲 也	税 務 課 長	羽 鶴 修 一		
	教 育 長	岡 陽 子	建 設 課 長	安 本 智 樹		
	総 務 課 長	津 岡 徳 康	会 計 管 理 者	森 川 陽 子		
	財 政 課 長	西 村 芳 幸	学 校 教 育 課 長	與 猶 正 弘		
	企 画 商 工 課 長	萩 原 昭 彦	太 良 病 院 事 務 長	井 田 光 寛		
	町 民 福 祉 課 長	田 崎 哲 次	社 会 教 育 課 総 務 係 長	松 本 清 孝		
	健 康 増 進 課 長	中 溝 忠 則	社 会 教 育 課 体 育 係 長	織 田 涉 良		
環 境 水 道 課 長	川 崎 和 久					
議 事 日 程	別紙のとおり					
会議に付した事件	別紙のとおり					
会 議 の 経 過	別紙のとおり					

令和7年3月18日（火）議事日程

開 議（午前9時30分）

- 日程第1 議案第23号 令和7年度太良町一般会計予算について
日程第2 議案第24号 令和7年度太良町後期高齢者医療特別会計予算について
日程第3 議案第25号 令和7年度太良町国民健康保険特別会計予算について
日程第4 議案第26号 令和7年度太良町漁業集落排水事業会計予算について
日程第5 議案第27号 令和7年度太良町簡易水道事業会計予算について
日程第6 議案第28号 令和7年度太良町水道事業会計予算について
日程第7 議案第29号 令和7年度町立太良病院事業会計予算について
日程第8 閉会中の付託事件について
- 追加日程第1 議案上程
町長提案 議案第30号
町長の提案理由の説明
- 追加日程第2 議案第30号 監査委員の選任について
- 追加日程第3 発議第1号 太良町議会の個人情報保護に関する条例の一部を改正する条例の制定について

午前9時30分 開議

○議長（江口孝二君）

皆さんおはようございます。

定足数に達しておりますので、議会は成立いたします。

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の議事に入ります前に、議案第22号の答弁について一部訂正の申出がっておりますので、発言を許可します。

○太良病院事務長（井田光寛君）

病院の補正予算議案第22号について、山口議員さんからの質問に対する答弁に誤りがありましたので、修正させていただきます。

「企業債の借入れが最大50%」という答弁をしてしまいましたが、正しくは「過疎事業債の借入れが最大50%」で、あとの残りの分を病院対策事業債で借入れをするということで修正をお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（江口孝二君）

それでは、本日の議事をお手元に配付しております議事日程表のとおり進めます。

日程第1 議案第23号

○議長（江口孝二君）

日程第1. 議案第23号 令和7年度太良町一般会計予算についての議事を継続いたします。昨日の本会議第4日目に引き続き、令和7年度太良町一般会計予算についてを審議いたします。

それでは、歳入全般の質疑に入ります。

第1款. 町税27ページから第21款. 町債56ページまでを審議します。

発言される場合は、予算書及び当初予算資料のページ番号を言ってから質疑を願います。

質疑の方ありませんか。

○8番（田川 浩君）

予算書の33ページの地方交付税です。今回、地方交付税について少し聞きたいと思っております。

今回、地方交付税の予算が26億5,000万円ということで上がっております。普通交付税のほうは24億円、あと特別交付税のほうは2億5,000万円ということですが、これは大体去年と一緒にしておりますね。それで、地方交付税の流れからいいますと、まず国のほうで大体12月ぐらいに地方交付税の総額というのが決まって、その後に各自治体のほうに配分されるという、そういった流れになると思いますけれど、この総額が前年対比どうなっているかという点が1点と、先ほど言いましたように26億5,000万円ということで、昨年と同額の予算になっております。この同額になっている算定根拠、なぜなのかというこの2点をお聞かせください。

○財政課長（西村芳幸君）

お答えします。

まず、地方財政対策の概要で示されている国の地方交付税の予算総額でございますけど、全体で18兆9,574億円ということで、6年度と比較しまして2,904億円、プラスの1.6%というふうになっております。これを基に当初予算を算定するわけでございますけど、町の予算計上としては全く前年度と同額で計上しております。というのが、普通に計算した場合、今年度より約1億1,000万円ほど伸びるかなという予想なんですけど、その1億1,000万円につきましては、6月以降の補正予算の財源として留保してるところでございます。

以上でございます。

○8番（田川 浩君）

分かりました。

それでは、次ですけれど、この地方交付税といいますのは、基準財政需要額から基準財政収入額を引いた不足分が交付税として充当されるということですが、聞きたいのは、本町の基準財政需要額が幾らで大体収入額が幾らというのを聞きたいんですけど、直近の確定

の値といいますと、多分令和5年度はもう確定してると思います。そのときの普通交付税額が24億7,817万5,000円ということで、これがどういったふうになっているのか、これをまず教えていただけますか。

○財政課長（西村芳幸君）

お答えします。

令和5年度の実績で申し上げますと、基準財政需要額が33億2,724万2,000円でございます。それで、基準財政収入額のほうが8億4,906万7,000円ということで、議員から御案内がありましたように、その差引きで普通交付税が24億7,817万5,000円交付されているというところでございます。

以上でございます。

○8番（田川 浩君）

基準財政収入額というのが大体8億5,000万円ぐらいということで、分かりました。

それで、その基準財政需要額というのがいろいろな項目を基に算定されて積み上がっていくんですけど、今回例えば人口とか面積とかそれが多くなれば多くなるほど結局はうちの交付税というのが増えていくということになるんですが、今回令和7年度の地方財政対策の概要というのを調べておりましたが、その中に普通交付税の算定方法の改正の一つとして、こういうのがあったんですよ。避難所となる公立小・中学校の体育館の空調設備が進められていることを踏まえ、これらの空調設備の光熱費について29億円を計上するということがあります。

これはどういったことかという、背景としては、今国のほうで国土強靱化、例えば災害時の対応ですとかそういったものについて、日本でするので結構いろんなところで災害がございますので、そういったときにどうしても避難所というのはその公立小学校ですとか中学校の体育館というのがよく使われるということで、そこに空調設備を整備してもらいたいという国の方針があるそうなんです。一応目標値というのがあって、95%にしたいという国の目標があるそうなんです。ただ、今現在令和6年度の9月時点ではまだ18.9%であるというところで、国のほうもそういったものを算定項目に上げて推進していこうということでございました。

それで、これは本当に私はタイムリーなことだなと思って感心したんですが、今回本町のほうでもこういった公立中学校の体育館に空調設備を整えるということをやりますけれど、今回こうやって事業化されたというのは、こういったこともあってされたのか、たまたまなのかということがどっちなのかなと思ひまして、その点が1点と、本町のその体育館の空調設備設置についてはどのような財源を活用されていく予定なのか、これについてお答えいただけますでしょうか。

○財政課長（西村芳幸君）

お答えします。

まず、1点目につきましては、議員から御案内がありましたように、公共施設に関する光熱水費をエネルギー等の価格が高騰しているからということで地方交付税で措置しようという話はあっておりますけど、今回の体育館の空調設備工事との関係は特にはございません。

それで、2点目の分につきましては、財源につきましては今緊急防災・減災事業債という起債メニューを予定しているところでございます。当該起債につきましては、事業費の100%を充当できるということで、あと交付税措置も70%措置ということで、非常に有利な起債メニューでございます。この対象事業は地方単独事業のみということでありますので、町の単独事業ということで、この起債を活用して整備を検討しているところでございます。

以上でございます。

○7番（竹下泰信君）

予算書の28ページの固定資産税について伺いたいと思います。

前年度と比較したら498万2,000円ほど前年よりも少なくなっておりますけれども、この理由について伺いたいと思います。

○税務課長（羽鶴修一君）

お答えいたします。

固定資産税に関しましては、土地、家屋、償却資産によって構成されておりますが、土地に関しましては、毎年毎年宅地の評価額が1%から2%の評価額減になっておりますので、その影響で減になっております。また、家屋、償却資産に関しましては、新築物件の減少によるもの、減価償却によって償却資産とか家屋は年々評価が下がっておりますが、それに対して新しく建てられる分が追いついていない状況によりまして、減少の見込みとさせていただいております。

以上でございます。

○7番（竹下泰信君）

土地、家屋、償却資産に対して98.49%を掛けておられますけれども、それぞれ498万2,000円を土地、家屋、償却資産に分けるとどうなるのか。それと、滞納分の繰越金の511万9,000円は、1,543万8,000円掛けるの33.16%になってますけれども、この33.16%の根拠はどうなっているのかを伺いたいと思います。

○税務課長（羽鶴修一君）

お答えいたします。

1点目の98.49%に関しましては、それぞれに掛け込むといいですか、固定資産税の収入の徴収率の平均値をここに上げておりまして、その分を掛け込んで収入見込額として作っておるところでございます。

また、滞納繰越分の33.16%でございますが、こちらも過去10年ほどの徴収率の平均値を

使いまして、計算をさせていただいてるところでございます。

以上でございます。

○7番（竹下泰信君）

ちょっと私の質問が悪かったかもしれませんが、比較した498万2,000円の内訳、土地、家屋、償却資産の内訳はどうなってるのか伺いたいと思います。

○税務課長（羽鶴修一君）

お答えいたします。

498万2,000円の内訳でございますが、こちらの数字も、先ほどありましたけど、過去10年ほどの各項目の収入の平均値を機械的に算出しております。結果、この数値が出てきておるわけですが、土地に関しては先ほど申し上げましたけど1%で昨年と比べまして95万6,000円の減、家屋に関しましては252万4,000円の減になっておりますけどこちらも約1.5%減少、償却資産においても同様に134万3,000円で1.4%の減少でございますが、こちらも過去の統計の数値を基に作って、減少率を掛けているところでございます。

以上でございます。

○2番（森田政則君）

予算書の36ページですが、衛生手数料のところ、1の保健衛生手数料の中で狂犬病予防手数料として34万円上げられていますが、何匹ぐらいになるのですか。

○環境水道課長（川崎和久君）

お答えいたします。

令和7年度の新規の登録数が38匹で11万4,000円、それで予防注射の接種数が412件の22万6,600円、足すことの34万600円ですので、34万円を予算計上しております。

以上でございます。

○2番（森田政則君）

昨年は34万2,000円とほぼ同じ金額ですが、客観的に見たら犬を飼われている方はずっと増えてるような感じがしますが、やっぱり受けない人が増えてるのでしょうか。

○環境水道課長（川崎和久君）

お答えいたします。

予防接種につきましては、どうしても病気の犬または老犬などの予防接種を受けられない方もいらっしゃいますので、そういった方で若干の予算が減る見込みで今回計上しております。

以上でございます。

○2番（森田政則君）

すいません。私は犬を飼ったことがないので分かりませんが、これは小型犬も大型犬も接種する義務があるのでしょうか。

○環境水道課長（川崎和久君）

お答えいたします。

生後91日以上の子犬につきましては接種義務がございます。

以上でございます。

○5番（山口一生君）

この予算書の中でふるさと納税の寄附金についての歳入が上げられているんですけども、今回また10億円ということで、年々どんどん厳しくなっているかなと思うんですけども、今年10億円を目指すに当たって考えられている対策というか、そちらのほうについて教えてください。

○財政課長（西村芳幸君）

お答えします。

議員御案内のとおり、ここ数年寄附金が落ち込んでおりますが、10億円を目標という感じで上げさせていただいております。それで、この金額をクリアするための方策といたしましては、まずは中間事業者への業務委託を行って、その道の専門家、専門職の方にいろいろなアドバイスをいただきながら、寄附金獲得につなげていきたいと思っております。

それと、うちの場合、ミカンに頼っているところがございますので、その中間事業者に業務を委託する際にも加工品の提案を中間事業者からもいただきながら、ミカンだけじゃなく、そういった加工品の開発等にも力を入れて、寄附金の獲得につなげていきたいと考えております。

以上でございます。

○5番（山口一生君）

これまで町のほうで直営という形でふるさと納税の事業を運営されてたと思うんですけども、いろんなところが民間の力も借りながら工夫をされてるということで、競争が激化しているのが現状だと思います。それで、中間業者の選定についても、いろんな提案を受けられて、いろんなプロポーザルとかそういうものを今後やられていって複数の中から選定をされていくと思うんですけども、ぜひいろんな加工品の開発を含めて、例えばふるさと納税の周りにはインターネットのノウハウだったりウェブサイトのノウハウ、デザインのノウハウ、商品開発のノウハウ、動画とか写真撮影とか結構いろんな町に残したほうが良いノウハウというのがたくさん関係してくるものでもありますので、いろんな雇用の面とかも含めて、こういう機会を使って民間の力を有効活用していただけたらなと思っております。

それで、いつぐらいに民間事業の選定を開始される予定で、その委託自体はいつから始められる予定でしょうか。

○財政課長（西村芳幸君）

お答えします。

今現在でのあくまでも予定でございますけど、業者委託については本年の10月からを予定しております。それから逆算すると、大体業務契約後、業務にかかっていた期間として3か月ほどかかるということですので、6月下旬頃にはプロポーザルを実施したいと考えております。

以上でございます。

○5番（山口一生君）

相当重要な選定になると思いますので、いろんな、なるべくたくさんの方に提案をいただけるような機会をつくっていただきたいなと思います。

その際に、今ふるさと納税の部署というか場所で働かれてる方、今雇用されてる方がいらっしやると思うんですけども、そういった方というのは今までの流れとかを御存じではあるので、そのままある一定期間は雇用を継続されるというか、スライドして雇用していただくようなものを条件の中に入れるのか、それともその辺は全てお任せという感じになるのか、そこを最後に教えてください。

○財政課長（西村芳幸君）

お答えします。

今雇用している会計年度任用職員になるかと思いますが、その方々については、その中間事業者のほうで雇っていただくとか、そういったことは考えておりません。あくまでも町の職員として必要な部署で今後も働いていただくという考えでございます。

以上でございます。

○10番（川下武則君）

予算書の52ページですけど、商工費貸付金元利収入が今年も5,000万円、前年度も5,000万円なんですけど、この貸付けで5,000万円入ってくるのは非常にいいことなんですけど、金利が少しは上がってってますし、町のほうにも余剰金じゃないですけど資金もあるので、もうちょっとこの貸付けを増やして収入に結びつくようなことはできないもんですかね。

○企画商工課長（萩原昭彦君）

お答えいたします。

まず、この貸付金の収入につきましては、年度当初、貸付けの分を返していただくような歳入の構造となっておりますので、新たに収入が出てくるような仕組みではございません。まず、1点目です。

それで、件数につきましては、公的資金としまして行政側が5,000万円、あと民間の金融機関もそれに追従する資金融通をされておりますので、今のところその範囲内で融資ができると考えております。

以上でございます。

○10番（川下武則君）

今の説明でこの件は分かったんですけど、町にもある程度預金と申しますか基金と申しますかがあり、この基金の運用をうまく使って利益を出すとかそういうことは、町長、どうでしょうか。少しこういうのも考えてみて、いい物件があればそこに投資するとか、そういうこともやっていったほうがいいのかなど。先ほどふるさと納税の話もあつたんですけど、いろんなところから収入を得ると申しますか、そういうのもやってみたらどうかと思うんですけど、そこら辺はどうお考えか、ちょっとお願いします。

○町長（永淵孝幸君）

基金の有効活用のことだと思いますけれども、過去にもそういうお話がありまして、いろいろ町の関係課が寄って協議をされて、そして基金の預金利息とか利子、そこら辺を勘案して、有利なところに預けるという方法をやっております。

ですから、これは以前投資して金塊を買うとか何かの話がちらっと出たかと思えますけれども、そういった危ないような橋は私は渡りたくないと。堅実に、やはり預金利息等、基金の利息等を活用して、とにかく増やしていくというふうな考えでございます。

それから、基金につきましては、あくまでも目的基金でございますので、各事業に利用するとき、あまりにも定期とか何かだけにこだわり過ぎてしたときに今度は使い勝手が悪くなればいけませんので、そこら辺は見極めながら関係者と協議の上、決めていきたいと、このように思っております。

議員言われるように、確かに基金が今60億円余り目的基金の中にあるわけですがけれども、それを有効に活用することは、増やしていくことももちろんですが、対策の一つだと思っております。

以上です。

○3番（峰 正雄君）

予算書の29ページ、たばこ税、これが5,000万円ぐらいあるわけですが、私も中には入ったことはないんですけど、中がどうなってるかちょっと分かりませんが、健康のために換気扇とかついているのか。また、いつも見ていると、立ち飲み、立ってされているなという感じがするんですけど、これだけの税収があればゆっくりたっぷり飲んでいただくためにも、中のほうはどうなってるのか、ちょっと教えていただけないでしょうか。

○町長（永淵孝幸君）

たばこを飲む場所は、今のところ庁舎外になっておりますけれども、暗黙の了解と申しますか、そういった形で、こういう雨降りに外に行って吸うてくたさいということもなかなか言えませんので、そこら辺を庁舎外ではありますけれども、たばこを吸われるような場所を早急に整備していかんといけないのかなと思っております。あくまでも庁舎外というふうなことで、一時、今の庁舎の東側にあるところが、何かあそこから煙が上がっているというふうなことで町民さんからも何かあつたという話でございますけれども、そういったことが言

われなくてもいいようにぴしっとして、飲む場所はやっぱり指定してやって、長年飲んでこられた方は言わば中毒症状になってるわけでございますので、そこをやめてくださいというのは言えないのかなというところもでございますので、そういったことで一応庁舎外には飲む場所を考えてるというふうなことでございます。

以上です。

まだ今のところはどこだとは、はっきりは言えません。

○副町長（毎原哲也君）

ちょっと補足ですけれども、敷地内が禁煙になってますので、庁舎外といえども吸えないという状況になっております。そういうことでございます。御理解よろしく申し上げます。

○総務課長（津岡徳康君）

申し訳ございません。補足の補足でございます。

原則として、太良町役場というのは第一種施設ということになっておりまして、敷地内は全面禁煙が原則でございます。これは庁舎内も同じでございます。そういったところで、JTのほうとも法的な確認をしたことがございます。それで、実際JTのほうの見解といたしましては、外の自然休養村側の出入口のところにあずまやがあるのを御存じだと思いますけれども、あそこのところに適切な措置をして、喫煙所と表示をして副流煙の被害が出ないように措置すれば全然法的には問題ございませんというような見解もあっておりますので、今町長と東側のあずまやのところで喫煙所の設置について検討をさせていただいてるところでございますが、一応敷地内は全面禁煙が原則ではございます。

以上でございます。

○3番（峰 正雄君）

私の勘違いで大変申し訳ございませんでした。

しかしながら、外のあずまやでできる可能性があるということでございますので、やっぱり好きな人は吸いたいのかなという方もおられますので、庁舎外ならあずまやのところで作っていただければ、私も26歳から吸っていないので全く興味がなかったもんですから、ちゃんと施設があるものだと、各待合所とか駅とかどこでもあるから、てっきりそう思い込んでおりました。

○議長（江口孝二君）

質疑がないので、これで令和7年度一般会計予算の歳入歳出それぞれの質疑を終了しましたが、歳入歳出全般と給与費明細書197ページから地方債調書の215ページまでの総括質疑を許可します。

発言される場合は、予算書及び主要事業一覧表等のページ番号を言ってから質疑を願います。

○6番（待永るい子君）

予算書の146ページ、観光客誘客事業補助金についてお尋ねをします。

まず1点目は、この事業の内容についてお伺いをしたいと思います。

○企画商工課長（萩原昭彦君）

お答えいたします。

まず1点目は、国内誘客事業としまして、夏から秋口にかけて宿泊客の閑散期のほうに入ります。そういったところの観光客の増員に向けた対策を一つ夏カニフェスという形で、それを含めて対策を取っている事業でございます。

2つ目が、インバウンド事業としまして、最近香港、台湾、そういった東南アジア圏から多く来ていただいている分に力を入れている事業でございます。

3点目が、体験型コンテンツ造成アクティビティ催事事業としまして、今年度も取り組んでおりますけども、サイクリングを活用したスローツーリズムということで、既存の交通体系に頼らず、自らの足で体験をしていただくような取組を計上しております。

あと、例年宿泊誘客事業ということで、1泊5,000円の宿泊補助を含めた事業を計上しております。あと、太良町観光カレンダーということで、旅館のほう、今おかみ会とかを作っただけでございますけども、その辺の補助をしている事業でございます。

以上でございます。

○6番（待永るい子君）

この宿泊補助ですね。これについて、これは限定じゃなくて、誰でもいいという、そういう取組なんですか。

○企画商工課長（萩原昭彦君）

お答えいたします。

お見込みのとおりでございます。

以上でございます。

○6番（待永るい子君）

原資を考えたら、この物価高の中に税金として太良町に納めていただいている原資で、これはある程度限定されるべきかなという考えを持っております。例えば町内の方とか、それからふるさと納税をしていただいた方で、ぜひ太良に来てみたいとかを言われた方とかを考えたときに、太良の方でない、例えば外国の方にしても、それが一つのやり方といっても、何で税金のほうでそういう宿泊の補助をしないといけないのかなと思って、私としてはすどんと納得がいけないところがあるので、そういう補助があってもいいと思うんですけども、対象をもうちょっと太良に関係のある方とか太良のほうに還元ができるというかですね。

いつかコロナ時代に町内の方に限り宿泊補助をされたのは、とても喜んであったので、例えばああいうこととか、もっと町民の方に還元できるような方法を考えていただくわけにはいかないんでしょうか。

○企画商工課長（萩原昭彦君）

お答えいたします。

以前もそういった経緯はありました。現行の事業につきましては、あらゆる方を対象としておりますので、当然町内の方も早い者勝ちといえますか、そういう形で先着順で申し込んでいただければ当然そういうものも可能ですし、町としましては新たな観光客を呼び込むための施策としてもこれを打っておりますので、そういった側面もございますので、今年度は両面入ったところでの措置だと考えております。

以上でございます。

○5番（山口一生君）

関連で質問なんですけれども、いろんな宿泊の補助を出して、先ほど待永議員が言われたとおり、町外の方にお金が、メリットが行くんじゃないかというのは、本当にそのとおりかもしれないなと思ってます。

それで、町内の方を優先して、例えば1週間とか町内の方がまず利用できる期間があって、その後にフルオープンにするみたいなやり方をすれば、一応町内の方を優先的にブッキングできるということも起こるのかなと思います。町内の方で全て埋まるというのはなかなか難しいかなと思いますので、ちょっと時期をずらせば今年度からでも取り組めるような仕組みになるのかなと思うんですけれども、それについてはいかがでしょうか。

○町長（永淵孝幸君）

限定というより、やはり太良町ではこういった宿泊に対しての助成をしているというふうなことで、これは全国に発信していくわけでございますので、ここはほかの全世界といっても、台湾、香港、この辺から見えるお客さんも利用されるわけですね。だから、申込みを取る場合、太良町に何人ぐらい限定とか、どこどこに何人ぐらい限定というのは、言われるのは分かるんですけども、なかなか厳しいと思うんですよ。例えば9軒の旅館に振り分けたとき、うちで出せば、太良町の方が向こうに入ったよとか、じゃあこっちではもう無理よ、じゃあオーバーしたねとか、そういうところのやり方が本当に難しいと思うんですよ。ですから、あくまでも先ほど課長が言いましたように先着順でございますので、太良町の方が早く行きたいと思えば早く手を挙げて申込みをしていただくと。これが私は今のやり方が一番いいと思って、こういう取組をしているわけです。やはり限定となれば、なかなか難しいところがあるわけですよ。

コロナのときは、町外からじゃなくて、町内で町内の旅館を利用してやろうというふうなことでやったわけですので、今のところはこういうやり方で関係者と協議をしながら取り組んでいきたいと。関係者がそういうことでも言ってこられれば、また検討する余地はあるのかなと思っております。

以上です。

○5番（山口一生君）

その時期は町民さんをちょっと前倒ししてオープンするというのは厳しいということですので、こういう事業が太良町民も利用できるということ自体を知らない人も結構いるのかなと思います。私も何か個人的に町民はできとかなというのはちょっと思っていましたので、もしよかったら、町民さんもこの制度を利用して町内の旅館に宿泊できるというのを徹底的に周知をされることによって、そういったマイナスなイメージというか、町民さんから出てするようなイメージというのは払拭できるのかなと思います。LINEを使ってとかでもいいと思いますので、いついつから始まるので町民の方もぜひ御利用くださいみたいなのは、一度情報発信をされたほうがいいんじゃないかなと思っています。

○企画商工課長（萩原昭彦君）

お答えいたします。

例年SNS、ホームページとか、あと町報とかいろんなところでも発信をして、今後も引き続きその発信はしていきたいと思っています。

それで、1つ補足ですけれども、この項目につきましては観光客誘客事業ということで取り組んでおりますので、そういった側面からいきますと、できれば外からの観光客を多く呼び込みたいための事業でございますので、その辺は御理解をよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○2番（森田政則君）

主要事業一覧表の45番ですけど、有害鳥獣駆除対策費補助金ということで捕獲に対する報償金が出ていますけれども、多い人で個人で1日に捕獲された金額がどのくらいになるのですか。

○農林水産課長（片山博文君）

お答えいたします。

多い人での捕獲頭数の御質問だったと思いますけれども、平均的に1日1頭程度が平均ですけれども、多いときで5頭程度捕られる方もいらっしゃいます。

以上でございます。

○2番（森田政則君）

いろんな方に捕ってもらっていますけれども、なかなかイノシシとか有害鳥獣が減らない。しかも、その上に被害が増えているとお聞きします。それで、減らない理由として、労力の割に収入が少ないからだと思いますが、どうでしょうか。

○農林水産課長（片山博文君）

お答えいたします。

捕獲頭数につきましては、毎年度右肩上がりに捕獲は実施していただいております。猟友会の方たちには、1頭当たりイノシシ最大で1万7,000円の捕獲報償金、国も県も市町も合

わせて支出をさせていただいております、今年度におきましてももう1,100頭以上の捕獲は実施していただいているところでございます。

以上でございます。

○2番（森田政則君）

例えばの話ですけれども、捕獲するグループとかを設立した場合、補助を検討する考えがあるのかお聞きしたいんですけど、お願いします。

○農林水産課長（片山博文君）

お答えいたします。

現在県の事業につきまして、捕獲するグループ、地区で捕獲の実施体というような形で設立していただいた場合については、単年度だけでございますけれども10万円の補助等がございますので、そういったのを活用していただければと思っております。

以上でございます。

○3番（峰 正雄君）

森田議員の関連ですけど、連番44の有害鳥獣の一時保管庫ですけど、今回3月27日が稼働ということでもございましたけど、年間1,100頭も捕れるということでもございますので、かなり予算を700万円ぐらい見てありますけど、冷凍して凍らせて廃棄物になってしまうのか、それとも資源になってしまうのか。その後の処分、そういったのはどういうふうに検討をされておられるのか、お願いします。

○農林水産課長（片山博文君）

お答えいたします。

処分につきましては、今のところ一般廃棄物として処理業者に委託する予定でございますので、今は廃棄というような形で考えております。

以上でございます。

○3番（峰 正雄君）

やっぱり資源として見れば、飼料にもなるし、肥料にもなる。そういった業者と話をしながら、少しでも利益が出るような方向に持っていかれないのか、どうでしょうか。

○農林水産課長（片山博文君）

お答えいたします。

今のお話でございますけれども、一般質問等でもございましたけれども、まず一日でも早く猟友会の皆様の埋却の手間をさせないような取組ということでお話がございました。そのために一日でも早くまずは処分をしたいという形で進めさせていただいております。その後、今議員が言われたような形で、新たな肥料であったり食肉であったり加工物であったりというのを今後検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○3番（峰 正雄君）

今始まったばかりですから、どれくらい集まるかも見当がつかないというような状況でございますので、集まれば今後検討をしていただきたいと思います。

それから、今日佐賀新聞でも豚熱、CSFが武雄で発見されたということで、もうすぐそこまで来ておりますけど、今日の話ですけど、町としてまだそういうところは対策というか、そういうふうな対策はどうでしょうか。まだ太良では出ていないと思っておりますけど、検査はされておられますかね。

○農林水産課長（片山博文君）

お答えいたします。

議員お話のとおり、武雄のほうではそういった形で対策が取られておりますけれども、あくまで県及び国の対策でございまして、そこに発生した場合にイノシシの予防対策をとるというような形の国の施策となっておりますので、今後そういったところも注視しながら太良町でも準備は整えていきたいと思っております。

以上でございます。

○7番（竹下泰信君）

地域おこし協力隊についてお尋ねしたいというふうに思いますが、これにつきましては、昨年12月の定例会のほうで質問したわけですが、その際の答弁として、新年度に向けて協力隊を活用した事業を検討していきたいというような話があったんですけれども、今回この予算の内容を見ますと、計上されていないんじゃないかなというふうに思いますが、これについてはいかがでしょうか。

○教育長（岡 陽子君）

令和7年度から地域おこし協力隊として教育委員会のほうでやってみようというふうに思っております。まだ予算化はしておりませんので、6月、7月の予算にかけてこれからスタートしたいと思っておりますが、概要はできておりますが、テーマで言いますと、わくわく学習ラボで、子供たち一人一人がこういうふうに学びたいと思ったことを実現してくれる、そういうサポーターをまずは入れて、1年計画を立て、それで2年目ぐらいからそういう学習ラボ、学習研究所みたいなものを作って、子供たちの希望をかなえるようなところを作っていったらなというふうに思っているところです。まだ計画段階ではありますが、進めていきたいと思っております。

以上でございます。

○7番（竹下泰信君）

その当時の説明では、企画商工課では要綱等を整備をして隊員の募集、あるいは採用ができるように準備を進めているという現在進行形やったんですよね。その辺についてはいかがですか。

○企画商工課長（萩原昭彦君）

お答えいたします。

先ほど教育長のほうからも説明がありましたけれども、原課と調整をしながらの業務となりますので、その辺の進み具合と合わせて要綱とかを作っていく予定としております。

以上でございます。

○7番（竹下泰信君）

農林水産課のほうでも中山間のところで進めていきたいという話があったんですけども、それは一応やらないというような内容でよろしいんですか。

○農林水産課長（片山博文君）

お答えいたします。

当時そのような形で大分検討を重ねてまいっておりましたけれども、今のところはなかなかそのような形でできるというような形にはなっておりません。

以上でございます。

○7番（竹下泰信君）

ぜひ前向きに検討していただいて、協力隊が活用できるような対応をお願いをしたいというふうに思います。

○5番（山口一生君）

今回の予算の中で、ITのシステムの改修とかそういったものがたくさんあります。それで、政府のほうからシステムの標準化というので、20業務ほど自治体情報システムの標準化というのが来てると思います。それについて20システムが対象ということなんですけれども、この期限が2025年度末が目標というふうになっているんですけれども、現在今年度いろんな予算を計上されてますけれども、今年度こういった着地の見込みで標準化が進んでいくのか、そこについて教えてください。

○企画商工課長（萩原昭彦君）

お答えいたします。

太良町におきましては、令和6年度から設計委託とかそういう移行の準備に取りかかっておるところでございます。それで、新年度につきましては、その切替え等の移行措置、あと順調にいくのかのテスト試験、そういったもろもろを含めて年度内の完成を見込んでおります。

以上でございます。

○5番（山口一生君）

政府のほうがこのガバメントクラウドというのを利用してシステムの統合というか、標準化を促していくということなんですけれども、本町においてこの自治体のシステムの標準化というのは、こういったメリットがあるんでしょうか。

○企画商工課長（萩原昭彦君）

お答えいたします。

まず、全国的な規模でのデータシステムの管理になることで、まず大規模災害の対策になる点が1つでございます。地元で持っていたら大地震とかが来た場合に情報が滞ってしまいますので、そういった国のほうでの正と副という感じで、ダブルでそういったところを管理するような仕組みになりますので、そういった点の利点がございます。

また、この標準化に伴いまして、当然行政自治体の事務の効率化につながるものと感じております。

また、高度で均一なセキュリティー対策ということで、どうしても自治体でしましたらタイムリーな措置がなかなか取りづらい状況にも陥って脆弱な状態になることも予想されますので、そういったところでは国の一元管理により高度なセキュリティー管理ができるものと思っております。

また、4点目につきましては、運用経費等のコスト削減ですね。そういったところで、共通部分でそういう今後維持管理とか、システムの見直しをする場合でも多くの自治体でそれを負担することによって単価が下がってくるというの見込まれるものでございます。

以上でございます。

○5番（山口一生君）

いろんなメリットがあって、今後来る、来ないほうがいいですけど、災害が起きたときとか、データのセキュリティーの担保とか、いろんなメリットがあるということで理解をしました。

それで、特にこの予算の歳入とかにもあるように、歳入があるということは何かしらの報告書とか書類のやり取りというのがあって、恐らくいろんな省庁とか県とかそういったものからお金が入ってくるという、何もしなくてお金が入ってくるというのはほとんどないのかなと。この全ての歳入に何かしらの文書とか事務処理がひもづいてるものかとは思いますが、そういったところが簡素化されるのは太良町としても喜ばしいのかなと思っております。

それで、この簡素化がずっと進んでいけば、事務職員の削減というものにも今後着手をせざるを得ないと思うんですけども、そういった今後何年間にわたって人員の適正化を行うとか、システムの統合を行って標準化をして、それが効率化されていくと、必要になってくる人員というのも変化していくと思うんですけども、そういったシステムの改変に伴う今後の人員の見通しについては、今のところどういったお考えをお持ちでしょうか。

○町長（永淵孝幸君）

これは一般質問だったですかね、その中でもお話ししましたけれども、今職員は幅広くいろいろな分野に携わっております。それで、知識的には、私はそういうことをやれば浅いと

思うんですよ。だから、狭くした仕事の分野の中で深く突っ込んでいろいろなことまで調べて、そしてこういった事業ではこういったメリットがあるとか、これはこうやってすればこういったことにメリットがあるとかというふうなことまで突っ込んだ形で職員にはやってもらわないといけないと思っております、今後は。こういったIT関係が進んでくれば、なおさらのことだと思うんですよ。

ですから、そういったことを導入することによって職員を減らすというふうなことは、今のところ私は思っておりません。逆に、まだ増やしていかんと、職員が例えば異動するときも、なかなか動かすにも大変だという思いも実際今しております。そして、心を病む人も出てきております。そういった状況の中で、職員を減らして、人件費を云々かんぬんじゃなくて、本当に太良町のためにどういった対策がいいのかということを考えれば、私は今職員を減して云々という形は考えておりません。

以上です。

○6番（待永るい子君）

教育費のことについて若干お伺いをしたいと思います。

教育費が今年3億7,690万2,000円ですね。小学校、中学校、それから教育総務費ということで上がっております。これは前年と比べたら6,632万2,000円の増加になっております。これは、大体教育関係は町の一般財源から支出をされております。それで、子育て支援の町ですから、子育てに力を入れる、それからいろんな文化の面とかに今年から力を入れていかれると。素晴らしいことなんですけれども、予算規模だけがどんどんどんどん先歩きしていったら、限りある財源というか、それは決まった財源の中でやりくりとこのことを考える必要があるのではないかと思いますけれども、それに対してはどのようなことをやりくりとして具体的に考えておられますか。

○町長（永淵孝幸君）

まず、教育関係の予算が膨らんでいるというふうなお話でございますけれども、先ほど議員も承知しておられるように、子育て支援の町というふうなことで、やはり子供たちのソフト面、ハード面を含めて、学校の施設整備、そして子供たちの教材費の無償化とかというふうなことで補助をするとかというふうなことをいろいろ考えてるわけですよ。そして、今財政のやりくりの中で、それは潤沢じゃありませんので、いろいろな事業を一遍にできないというふうなことでやっております。そして、先ほどの空調関係も、中学校の空調のときも出ましたけれども、本当は私は中期財政計画の中では、小学校も一遍にやりたかったんですよ。しかし、財政的なことを考えて、そして小学校は1年遅れてというふうなこともやっております。しかし、今後もまだ教育関係にはしっかり予算を組むという考えも自分は持っておりますので、私はそういった形で行きますので、当分は教育予算には、増やすというわけにはいきませんが、その適正な是非を判断しながら対応していきたいと、このように思っ

ております。

以上です。

○6番（待永るい子君）

そういうふうに教育環境を整えていくということはとてもいいことだとは思いますが、
どんどんどん増えるだけじゃなくて、どこかはやりくりしてますよというのを私は聞き
たかったんですね。

例えば、ペーパーレス化は進んでいるのかどうか。3月になって大量の紙、コピー紙を買
われるという。今年予算を使ってしまわないと来年の予算は出ないからという、そういう
考え方の現場がないかどうか。それから、例えば冷暖房の消し忘れとか、そういう電気とか
そういうのはないか。それから、異常な温度設定にしてないか。

そういう小さなところなんですけれども、そういう小さな積み重ねが少しずつマイナスの
方向になって、ここには使いたいけど、ここはちょっと我慢しようじゃないけど節約をしよ
うとか、そういうのがないと、人間はやっぱりぜいたくというか、いい環境に慣れたらどん
どんどんそのいい環境、いい環境となっていくと思うんですけれども、そこら辺をきち
っと役割分担して、民間では例えば火元責任者、何とかさんとか書いてきちっと貼ってあっ
て責任を分けてあるんですけれども、そういうのが学校の現場でもきちんとなされているの
か、その辺のところを。

学校現場というのは、私たちは見えないんですよ。だから、その辺のところをどう考え
てらっしゃるかなと思って、一応担当課の意見をお伺いしたいと思います。

○町長（永淵孝幸君）

担当課長が答弁する前に。

学校予算が膨らんでいると。今度も予算の中で、入学祝金を3万円から5万円に上げてお
ります。そして、卒業祝金も3万円から5万円に上げております。ですから、こういったこ
とで、今物価高とか何かで子供さんたちを育てておられる家庭は大変厳しいと思う中でやっ
てるわけです。ですから、そういった予算をやる時、ただ財政的なことは何も考えないで
やってるわけじゃございませんので、そこら辺はしっかり教育予算の中でも全体的に見極め
ながら取り組んでおりますので、不必要なもの、例えば子供たちが昼休みに遊びに出たとき
にも教室の電気をつけっ放しとか、私はそういうことは、たまに学校に行きますけれども、
今はあってないようでございますので、そこら辺は辛抱しながら。

本当にこれはちょっとした話ですけども、私が卒業式のときにトイレに入りました。スリ
ッパが2足しかないわけですよ。便器は3つあるんですよ。これはあんまり辛抱し過ぎじ
ゃなかねというふうなことでお話ししましたけれども、そういったことも含めて学校現場で
も多分辛抱はされていると思いますが、今後学校教育課のほうでも学校あたりの指導あたり
を十分やっていただくようにはお願いしたいと思っております。

私からは以上です。

○学校教育課長（與猶正弘君）

担当課としてお答えします。

今町長が言われたとおりですけれども、今回新規事業、英検検定補助とか卒業祝金、入学祝金の補助金をアップしておりますけれども、ただ単に増やすだけじゃなく、これは役目は終わったかなというような事業は廃止をしたりして、いろいろ工夫しながら進めてるところでございます。

それと、学校のコピー用紙とか電気代についても、学校のほうにはくれぐれも節約をということで以前から言っておりますが、空調につきましては、せっかくつけたのに使うなどは言えませんので、適度な温度設定をしながら節約に努めているところでございます。

以上です。

○6番（待永るい子君）

私が一番備品で心に引っかかっているのが、両方の中学校に琴があるんですよね。大正琴とかじゃなくて、本当の琴です。多分あの楽器は高いと思います。1台何十万円かすると。それが10台ですかね、備品を見れば分かりますけど。それで、1年に何回弾くのだろうと思ったんです。それを学校で買って保管をしてあるんですよね。楽器というのは、湿気とかそういうので、保管がとても難しいと思います。その当時は必要だったのかもしれないけど、今何回弾いてるんだろうと。それで、私もこれはリースではできなかったんですかと言ったんですけど、使いたいときに使いたいから買ったみたいな、そういう説明を受けたのかなと思うんですけど、そういうところを今後はもう少し考えていただいて、管理していくのが大変だからリースのほうがいいのか。価格的にもあんまり変わらないぐらいじゃなかったかなと思ったりするので、その辺のことを大きな買物をするときは慎重に今後お願いをしたいなと思いますけど、いかがですか。

○学校教育課長（與猶正弘君）

お答えします。

琴につきましては、音楽の授業ということで使われておりますけれども、すいません、使用頻度については今資料がございませんので分かりませんが、その辺の今後買換え等が必要になってきた場合は、リースも含めて検討はしていきたいと思っております。

ありがとうございます。

○11番（坂口久信君）

先ほど竹下議員から地域おこし協力隊についてお話があったと思いますけれども、太良町においてはぜひ必要とは思っております。あいどんほとんど、農林水産課がやめ、企画商工課がやめ、学校教育課のほうを検討しますというふうな状況たいね、学校教育課がいいのか悪いのかは別として。

今テレビを見よれば、地域おこし協力隊とって非常に注目されとるですたいね。非常に活用方法というか、上手に太良町を売り出したり、例えば太良町のミカン産業も非常に今は値段が上がって、人口減、高齢者ばかりになってしもうとる。そういう状況の中で、そういうところの地域おこし協力隊あたりを呼んで、よそは結構呼んでいろんな活動をさせてもらいながら、その後の後継者ができたりとか、太良町のよさとか自然の環境とかなんとかよさもPRしながら、太良町に住んでよかったというふうな状況を、よそはそうやってずっと増えよるわけね。

そいけん、うちはそういう活用の仕方というか、その辺がなかなかまだ遅れとるとじゃなかなかと。もう目に見えて農家は後継者がおらんわけやっけんが、その辺は少しは農林水産課はそこんにきも含めてぜひ検討していただいて、こういうのを上手に活用してき、よそは上手にそれなりに活用しよるわけやけんが、うちも活用し切れんことはなかと思うけんが、上手に活用して、利用しながら太良町をPR、そして後継者が残っていくような状況を。なかなか後継者が残らんじゃなかなですか。そういういろんな施策は考えてあると思いますけれども、その辺が第1点ね。

そして、学校教育課がいいのか悪いのかは別にして、そこに協力隊が必要なかどうか。私はあんまり必要なかと思うとるけん、それよりかはこっちに重点を置いて、太良町をPRして、ぜひ太良町に後継者を残したりとか農業の太良町のよさを発信してもらいたいと思いますけれども、再度、もうしよらんけん終わりじゃなくて、あんたたちもテレビでごっとい見ようだいな。そがんとをぜひ感知して、よそがいかにか利用しよるかを考えて、太良町にもぜひ考えてもらいたいと思いますけれども。

○副町長（毎原哲也君）

お答えします。

先ほどの地域おこし協力隊の件につきましては、今年度に佐賀県が全国的に見ても利用頻度というか導入頻度がかなり低いということで、副知事を筆頭に各市町の副市長、副町長がそのメンバーとなって、佐賀県全域で地域おこし協力隊の導入を推進しようという会議が開かれまして、それは現在もまだずっと生きてるわけです。それで、だから太良町もその一環で、今回教育委員会がまず1番バッターみたいな感じで導入をしようという経緯になっています。

それで、今坂口議員がおっしゃるように、もうなかったからこれで終わりじゃなくて、ただいまもまだその推進中でございますので、今後また太良町の情勢に合った地域おこし協力隊の形式というか、何か導入できそうなものがあれば、それは引き続き県のほうからも要請が来ておりますので、導入していきたいというふうに考えております。その会議も、課長会議あたりでもそれを検討してくれということによっておりますけれども、数が少ないみたいですので、今後はもう少し検討委員会か導入推進委員会かは分かりませんが、そうい

うものを開いて推進をしていきたいというふうに思います。これは結果を県のほうから求められますので、必ずもう少ししていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○11番（坂口久信君）

もうあんたが責任たいね、最終的には。それは序章じゃなかばってん、ほかに手を挙げるとがなかけん、学校教育課がしたと。例えば、太良町は今待永議員が言わすように十分子育て支援、学校には力を入れとうわけね。よそよりかは多分、一番とは言わんけれども、3つの指ぐらいには入って教育にも力を入れて、ありがたいことですよ。それに対して、また協力隊を入れていいのかどうかは、私はそっちよりかは太良町の人口を増やしたりとか、いろんな状況で太良町をPRすると。

ちょいちょいテレビを見よれば、太良町もこがんとぐらいしてもよかとばにやあと。よそはなかなか地域性とか田舎やったりなしたりして、あいどんまだまだ太良町のよさのつながっとらんわけね。やっぱりこういうのを余計入れて、それは金もかかったり、いろんな補助もあるわけやけんが、その辺については、それはあんたが責任を取って、前を打って、1軒でも2軒でもそうやって後継者を残さんばいかん、農家は潰れてしまうばい。そういう状況の中で、誰かそがんやって、よさも分かった、ミカンがうまかったりしよれば、後継者も1人か2人か残ってきたいなしたいする可能性があるわけやっけん、今は可能性にもかげざるを得んじゃなかね。ぜひそういう可能性にかけて、副町長が礎になって、ここ二、三年のうちにはびしゃっとすると、あんたの答弁を求めます。

○副町長（毎原哲也君）

お答えします。

今議員がおっしゃったように、もう少し具体的に推進をしていきたいというふうに思います。

以上でございます。

○5番（山口一生君）

地域おこし協力隊のお話で盛り上がってるので私も関連なんですけれども、地域おこし協力隊は以前からこの議会でもいろんな話が出ていて、隊員1人当たり特別交付税というのが出て、年間520万円が総務省から出ますと。こんなにいい話というのはなかなかないというか、そういう人件費が国から手当てがきちんとされる。

それで、自治体によっては10人とかいるところもあって、太良にいきなり10人来たらちょっとてんやわんやするけん、あんまりそこまではと思うんですけども、観光振興に関わる隊員だったり、空き家問題に関わる隊員だったり、教育問題に関わる隊員だったり、1次産業の例えばPRとかそういったことに専任的に携わる人員というのは、もちろん太良町でも本当に喉から手が出るほど欲しい人材ではないかなと思いますので、空き家の整備、住むとこ

ろの整備とも関連づけて、若い人を国のお金で引っ張れるすごくお得な制度でありますので、まずは1人から始めて2人、3人、5人ぐらいおると大分雰囲気も変わるのかなと思いますので、そのあたりは先ほど来いろんな議員さんが言われてますけれども、私のほうからもお願いをしたいと思います。

○副町長（毎原哲也君）

お答えします。

その導入について、いろいろどうやってやるのかなとかそういう導入の方法について県のほうも研修会とかを開いて行っておりますので、そういうのに参加して、今後ともまだそういう研修会があると思いますので、こちらが意図するようなものがどうやって導入できるかというようなことも研究していきたいというふうに思っています。よろしくお願ひします。

○5番（山口一生君）

先ほど坂口議員のほうがそういった制度を活用するのは副町長の責任というふうにおっしゃってましたけれども、議員側の責任としては、例えばその隊員を受け入れた際には、その隊員が活躍できるように地域とのつなぎをしたり、友好的な関係を築けるように地域になじんでいただけるように議員としても頑張っていきたいなと思いますので、そちらのほうはお任せいただければなと思っております。

以上です。

○6番（待永るい子君）

私たちはこの会計を見て、いろんなことをお聞きしながら、ただすところはただしていくとか、そういうのが私たちの役目だと思っておりますので、すみません、町長はちょっと怒られるかも分かりませんが、質問をしたいと思います。

現在太良町の役場は、職員が110名、会計年度任用職員が86名、再雇用が3人、合計199人で、職員の人件費が8億1,140万8,000円、会計年度任用職員が3億1,681万2,000円、再雇用が831万7,000円、合計11億3,653万7,000円。この中に三役と議員は入っておりませんが、この人数と数字に関してはどのように思われてますか。

○町長（永淵孝幸君）

これは何回も私は議員から質問されるから同じような答弁をしますけれども、太良町の職員数が全国で何番目にあるか御存じですか。多分御存じないと思います。そういったところは、毎年類似団体という数字が出てるわけです。今持ってきておりませんが、毎年大体八十数団体あると思います。その中でも、太良町は下から職員数の少ないのは8番目なんですよ。

ですから、そこら辺をよく見て言うてもらわんと、頭にくるとさっき言われましたけれども、職員と人件費の問題は、そして今は会計年度任用職員の人件費がどのようになっているかというのも御存じでしょう。期末手当、それから勤勉手当が出ますよ。それなりの責任

を持って仕事をしてもらおうというふうな指導も、各課長を通じてやっております。そういった中であっても、先ほど言いましたように、人事異動をするとき本当に少なくて困ってるんですよ。

ですから、今後は窓口を広げたのも、町内だけに限っておりましたが、なかなかその一般教養とか何かでも優秀な人材を集めきらんというふうなことに至ったものですから、町外に門戸を広げて、そして採用する方法もやってるわけです。しかし、会計年度任用職員さんについては、町内にいろいろな雇用の場が少ないというふうなことで、極力町内の方を限定的にやっていくというふうなことをしております。

ですから、先ほど言いましたように、職員には先ほども出ております地域おこし協力隊をやるかやらんかということまで含めて専門的に職員に勉強してもらわんと、取組も厳しいんですよ。だから、私はまだ職員は増やしますよと言ってるんですけど、百何名と言われましたけど、普通のところで128名ぐらい多分あったと思います。真ん中付近でね。ですから、私はそれを今でも太良町の職員が多いとか何かということは考えておりませんので、職員を増やしながらか、それはひいては会計年度任用職員さんを少しでも減らしながらか職員を増やしていきたい。そうしていかんことには、本当に職員が深く勉強できないでいるんですよ。浅く広い状態です。

ですから、職員をもう少し増やしながらか、もっと本当に太良町のことを真剣に、いろいろな事業を持ってくればこういうことが解決するんじゃないかということを考えてもらうためにも、少し幅を狭くしとって深く知識を持ってもらうというふうなことで話しておりますので、私は何回も申し上げますけれども、職員を減する気持ちはありません。

以上です。

○6番（待永るい子君）

私たちはこの数字に向き合いながら考えていけないといけないというそういう仕事をしておりますので、自治体の人件費というのは、私たちの考えとしては税金で賄えるぐらいの人件費が一番ベストかなと思うんですけど、今のところ税金は町民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税、入湯税を全て加えて7億7,058万6,000円ということで、倍まではいきませんが、そういう状態の中で、できたら税金を何とか人件費に充てながら、あとは交付税で町の事業をしていくというのが一番安全というか、安定したそういう運営方法じゃないかなと考えたときに、じゃあ今後どうしていくかといったら、人件費を抑えるか収入を増やしていくか、2つに1つしかないわけで、町長が人件費はもう減らしませんと、増やしますと。

私もさっき町長が言われたように、正職を増やしていくのがいいと思ってるんですよ。やっぱり試験を受けてちゃんとして職員になった人と、面接はあるでしょうけど、そうじゃない人と、同じ責任を持つ仕事ができるんだろうかというそういう不安もありますし、職員を増やしていってずっといろんな分野で鍛えていっていただくというのには賛成なんで

すけれども、さっき言われたように会計年度任用職員の方は年間40万円ぐらい今年から多分人件費が上がってると思います、全部期末手当とかそういうのを入れながら。

そういったときに、じゃあ町の財政として減らさないんだったら、収入を増やすというほうにかじを切っていかないと、どこかで行き詰まってしまうかも分からない。目の前は、まだ基金があります、大丈夫ですということかもしれませんが、5年先、10年先ということを考えたら、私たちはそういう心配もするわけで、じゃあ増やしていくという方法では、もうそれしかないわけですよ、職員の数は増やしていくほうしか、人件費は減らしませんよと今町長が言われましたので。じゃあ、増やしていくという方法は、どういうふうを考えてらっしゃいますか。

○町長（永淵孝幸君）

その前に反問をお願いします。

○議長（江口孝二君）

許可します。

○町長（永淵孝幸君）

まず、人件費がうちの町ぐらいの規模でどのぐらいが妥当と思われませんか。そこを教えてください。

○6番（待永るい子君）

税金で賄われるぐらいかなと考えますけれども。

私が心配するのは、今日本自体の経済がすごくいびつな形の歳入歳出になっていると考えてます。国債が収入の4分の1ですかね。それで、支出にもその国債の利子を払うという、すごいそういうのになって、うちがずっと今のままでいってたら絶対そういうふうには陥らないという保証はないわけで、やっぱりそういうところを心配しながら考えてるわけですが、私はそう思ってますけど、何とか税金でやりくりできるぐらいの金額で収めていけたらなと思ってますけど。

○町長（永淵孝幸君）

先ほどの私の反問に対しての回答はあまりなかったような感じなんですけれども、うちの税収が7億5,000万円ぐらいですよ。交付税が先ほどの26億円ぐらい。その中で、じゃあそれだけで職員の人数を決めて、給与を決めて。職員給与も上がった分については、多分交付税が別の形でされていると思います。

ですから、私が言うのは、減らす減らすで、じゃあそんなに人件費が上がるというならば、事業を減らせばいいじゃないかと。しかし、今やっている事業は、絶対私は必要だと思ってやっているわけです。だからといって、基金も、目的ではありますけれども、六十数億円の基金を持っているわけですね。だから、私はほかの市町として本当にそこまで財政的に、自主財源が乏しいということは分かりますよ、ですからふるさと納税も何とか増やすような努

力をやってみようとかしてるわけです。そんな中で、その人件費ばかりを取って言われれば、職員も減ってきて、結果的に同じような事業をしていかなきゃいけないわけです。そこで、また幅広くやっていくとなれば、職員も負担が出てきて、またいろいろな症状も出てくるということがあるから、私は職員を多くしてやっていくと。

しかし、その人件費が上がるのは、今は国内でも最低賃金が云々かんぬんと言われてるじゃないですか。大手企業ならそれでいいでしょうけども、中小企業は厳しいと言われております。そういったところは我々小さな町にとっても厳しいわけですけど、しかし上げない、雇わない、そうすればどうするかと、町民サービスが低下すると。ひいては、そこに行くかも分かりません。

そういうふうに全体的に考えながらやっておりますので、それは議員が言われるように、どこの町とかと比較して同じような自治体でやられたら太良町は多いじゃないかと言われてれば私も検討する余地はあるかと思えますけれども、私は今類似団体とを見ても、そうまではうちは悪くはないと思っておりますので、頑張っているほうだと私は思っております。

以上です。

○議長（江口孝二君）

それでは、審議も十分尽くされましたので、質疑を終了します。

討論の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

討論ないので、採決します。

議案第23号 令和7年度太良町一般会計予算について、本案に賛成の方、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（江口孝二君）

起立全員。よって、本案は原案どおり可決されました。

暫時休憩します。

午前10時59分 休憩

午前11時10分 再開

○議長（江口孝二君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほどの質疑の中で発言の訂正がありましたので、許可いたします。

○3番（峰 正雄君）

議案第23号の質問中に、庁舎内での喫煙という間違いがございましたので、訂正をさせていただきます。

以上です。

すいません、削除をお願いします。

日程第2 議案第24号

○議長（江口孝二君）

日程第2．議案第24号 令和7年度太良町後期高齢者医療特別会計予算についてを議題といたします。

質疑の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

質疑がないので、質疑を終了します。

討論の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

討論ないので、採決します。

議案第24号 令和7年度太良町後期高齢者医療特別会計予算について、本案に賛成の方、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（江口孝二君）

起立全員。よって、本案は原案どおり可決されました。

日程第3 議案第25号

○議長（江口孝二君）

日程第3．議案第25号 令和7年度太良町国民健康保険特別会計予算についてを議題といたします。

質疑の方ありませんか。

○5番（山口一生君）

この予算書は国保の11ページになるんですかね。歳入歳出予算事項別明細書の繰入金の額が前年度と比較して8,700万円の減ということで、これは結構大きい額の変化があるんですけども、この中身について教えてください。

○健康増進課長（中溝忠則君）

お答えいたします。

国保の11ページの繰入金の8,745万円の減につきましては、他会計繰入金、これは一般会計からの繰入金でございます。これが645万2,000円の減でございます。あと、基金繰入金、これは支払準備基金繰入金でございます。この分が8,100万円の減額になっております。

以上でございます。

○5番（山口一生君）

いろんなところから減額が起こってるということなんですけれども、大体本年度の予算でいうと、全体の10.4%が繰入金ということになっているようです。それで、この10.4%という水準が適正な値であるのか、今後どのように推移をするのか、見通しについて教えてください。

○健康増進課長（中溝忠則君）

お答えいたします。

この繰入金に関しましては、今国保の医療費も若干右肩上がりです。それで、議員のほうも御承知だと思いますけど、太良町におきましては国保の特別基金がございます。これが6年度末で約1億1,000万円程度ございます。その基金を活用しながら、またなおかつ一般会計の繰入金、それと国税、これは町民の方から税収を頂くんですけど、その繰入金等々を活用しながら今後も運営をしていくという考えでございます。

以上でございます。

○1番（大鋸美里君）

国保21ページの委託料、柔整患者調査・啓発業務委託料、これは何なのか、目的等を教えてください。

○健康増進課長（中溝忠則君）

お答えいたします。

これははり・きゅうですね。これは1種と2種があるんですけど、はりときゅうに対しての国保連合会に支払う分の委託料でございます。

以上でございます。

○1番（大鋸美里君）

大体町内でどのくらいいらっしゃるのか、今後増えているのか、そういうのは分かるのでしょうか。

○健康増進課長（中溝忠則君）

お答えいたします。

今はり・きゅうの見込みということで御質問がありましたけど、途中なんですけど、令和6年度で申し上げますと、はりの1術が見込みで259件、2術が277件ということで、近年は年度で浮き沈みがありますが、大体横並びぐらいかなという状況でございます。

以上でございます。

○議長（江口孝二君）

質疑がないので、質疑を終了します。

討論の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

討論ないので、採決します。

議案第25号 令和7年度太良町国民健康保険特別会計予算について、本案に賛成の方、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（江口孝二君）

起立全員。よって、本案は原案どおり可決されました。

日程第4 議案第26号

○議長（江口孝二君）

日程第4. 議案第26号 令和7年度太良町漁業集落排水事業会計予算についてを議題といたします。

質疑の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

質疑がないので、質疑を終了します。

討論の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

討論ないので、採決します。

議案第26号 令和7年度太良町漁業集落排水事業会計予算について、本案に賛成の方、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（江口孝二君）

起立全員。よって、本案は原案どおり可決されました。

日程第5 議案第27号

○議長（江口孝二君）

日程第5. 議案第27号 令和7年度太良町簡易水道事業会計予算についてを議題といたします。

質疑の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

質疑がないので、質疑を終了します。

討論の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

討論ないので、採決します。

議案第27号 令和7年度太良町簡易水道事業会計予算について、本案に賛成の方、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（江口孝二君）

起立全員。よって、本案は原案どおり可決されました。

日程第6 議案第28号

○議長（江口孝二君）

日程第6. 議案第28号 令和7年度太良町水道事業会計予算についてを議題といたします。質疑の方ありませんか。

○11番（坂口久信君）

簡単な質問ですけれども、増えよるのか減りよるのか。

ちょっとごめん。ほんなら、もう一度。町内でこの水道の利用状況が前年と比べて減りよるのか増えよるのか。この人口減少社会やったり何かして、それでも戸数はそう減ってないような状況ですので、水道が減っているのかどうか、利用量、利用が。

○環境水道課長（川崎和久君）

お答えいたします。

使用量につきましては、減少傾向にあると考えております。料金収入につきましても、若干の減少をしている状況でございます。

以上でございます。

○11番（坂口久信君）

今後の見通しとして、どんどんどんどん人口が減っていく、戸数はそう減らないような状況ばってんが、将来像としてどういう考えを持っておられますか。

○環境水道課長（川崎和久君）

お答えいたします。

議員がおっしゃるように、給水人口の減少は今後歯止めが利かないのかなとは考えておるところでございます。また、料金収入もそれに伴って減少傾向になると考えておるところではございますけど、今後経費削減、維持管理費の削減などをしながら、また更新費用につきましては、有利な起債等を借りながら今後事業を展開していきたいと考えております。

以上でございます。

○11番（坂口久信君）

簡易水道も上水もしかりですけれども、水道管のそういう状況はどういう状況になっておりますか。まだ設備投資等が今後多分幾らか計画的にされておるとお思いますので、その辺についてはどう考えておりますか。

○環境水道課長（川崎和久君）

お答えいたします。

耐震管の率で申し上げますと、上水道で耐震管率15.7%、簡易水道で17.2%ということで、まだ率については少ない数値ではございますが、今後計画的に耐震管計画などを令和9年以降に策定しながら、全体的な事業費の把握に努めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（江口孝二君）

質疑がないので、質疑を終了します。

討論の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

討論ないので、採決します。

議案第28号 令和7年度太良町水道事業会計予算について、本案に賛成の方、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（江口孝二君）

起立全員。よって、本案は原案どおり可決されました。

日程第7 議案第29号

○議長（江口孝二君）

日程第7. 議案第29号 令和7年度町立太良病院事業会計予算についてを議題といたします。

質疑の方ありませんか。

○5番（山口一生君）

病院の19ページです。医師の給与なんですけれども、給与云々ではなくて、医師の確保についてお尋ねをしたいと思います。

今医師の方が、特別職1人、医師が4人、医師の会計年度任用職員が1人ということで、6名いらっしゃるんですかね。それで、小児科の医者の方が月水金とか限定的に来られてるとか、いろんなお医者さんの獲得について非常に不安視する声が町民さんからあっても、今現在どのような状態なのか、今後十分に医師を確保できる状態にあるのか、そのあたりについて教えてください。

○太良病院事務長（井田光寛君）

お答えします。

医師確保のことということで、来年度、まず内科の医師、常勤の先生を1人増員ができます。それで、来年度からもう1人、非常勤の内科の医師、火曜日1日ですけど、これは佐賀

大学のほうから派遣を1日増員ということではいただくようになりました。だから、内科のほうは充実してきています。

それで、一番気になるのは小児科のところだと思うんですが、申し訳ないんですが、今年度と同様、来年度も月水金ということになってます。その辺の平日の火曜、木曜を埋めたいということで、いろんな方面、人材紹介会社も含めていろんなところに相談等をしておりますが、現状は小児科については確保できていない状況になります。

それで、今後医師の確保を安定的にできるかというところですけど、はっきりとした回答はできないんですが、今まで以上にいろんな方面に募集活動を広げて、しっかり確保に努めていきたいと思っております。

以上です。

○5番（山口一生君）

内科のほうは来年度充実をしていく予定ということで理解をしました。

それで、医師の確保がどんどん難しくなっていくというのは、引退される医師の方も増えてくるでしょうし、新たに医者になる方も減っているということで、そういう問題があるのかなと思うんですけども、例えばより多く給与を支払ったら医師の方が来てくれるようなものなのか、例えば給与を増やしてもなかなか獲得というのは難しいような状態なのか。そのお金の面が問題なのか、医師獲得の難しさの根本的な原因、そのあたりはどういうところにあるというのをお考えでしょうか。

○太良病院事務長（井田光寛君）

お答えします。

まず、最初のお金を出せば人が来るかという御質問ですが、それは出せば来る人もいるかもしれませんが。それははっきり私も言えませんが、実際そういうふうにして来られた病院さんでいい結果が生まれたかというのは、聞いたことはあまりないです。

それで、もう一点、すいません、何でしたっけ。

○5番（山口一生君）

それで来るかどうかという認識ですね。

○太良病院事務長（井田光寛君）

あと、給料の面はそうですけど、医者が今後來るかどうかが、集まらない一番の原因というところですね。すいません。

そこは、やっぱり佐賀県内に新しい新卒の医者が残っていないと、医局に残っていないというところなんです。それで、研修医制度が始まってもう十数年たちますけど、初期研修、後期研修を佐賀医大で行うのではなくて、都会の大きな病院に研修に出してしまうと、そのままそこで就職してしまう。それで、佐賀県の佐賀医大の出身の医者が戻ってきてないと。本当にそういう問題点がありますので、県のほうも佐賀県枠ということで医者の育成を始めて、も

うそろそろそういう枠で卒業する先生が出てくるような状況です。そういう状況ではあります、人数も限られてて、そういった先生方の派遣先も、まずは研修という意味で、地方の小さい病院に回ってくるような状況ではいまだないというところです。総合的には、全体的に若い医者が減っているというのが一番の原因なのかなと考えてます。

以上です。

○5番（山口一生君）

もう医師になる方が佐賀県内で少ないということで、皆さん都会のほうでお仕事をされるケースが増えているということを理解しました。

それで、今後もしかしたらオンラインの診療とか、ネットでつないで今後医師の方に症状を診ていただくとか、定期的な健診を行うみたいな、その病状がシビアでなければ定期的な健診程度であればオンラインの診療等も今後活用できる可能性があるのかなと思いますけれども、そういった可能性について今後検討をされる予定があるのか、そういった情報をどういうふうに今集められているのか、そういったところはいかがでしょうか。

○太良病院事務長（井田光寛君）

お答えします。

医療業界も医療DXということで、いろんな電子化とかタブレットを使った診療であるとか、そういうのが始まってます。それで、そういったところも当院もそろそろ踏み入れなければ、始めなければいけないかなとは思ってるところです。それで、いろんな講習会等がありますので、私も勉強に行ってから今後導入ができるように進めていければと考えています。

以上です。

○11番（坂口久信君）

ちょっと太良病院の会計には関係ないと思いますが、病院に関係して、太良町に結構視察研修に来られていると思います。何回か聞き及んでおります。そういう中で、相手がどういう課題を持ってきよるのか、そしてこっちの太良町の病院がどういう課題があるのかについて、よかでしょうか。

○太良病院事務長（井田光寛君）

お答えします。

議会を通じての視察研修というのが、2年に1回ペースぐらいであっているのかなと思ってます。それで、視察に来られる方々は、やっぱり町立の病院を持ってあるところで、赤字体質がずっと続いて今後病院をどう改革したらいいとか、あとは病院の建て替えをしなければいけないけど今の状況で本当に建て替えに進んでいいのかとか、そういったところで少し参考になればということで見学に来られていると思ってます。

それで、こちらからお答えする内容としては、15年ほど前の太良町の病院改革の状況であ

るとかその辺のお話をしたり、事務系が役所とのローテーションのような状況になって専門的に事務のスタッフがいるということであるとか、あとは毎年の診療報酬に本当に敏感になって収入を上げる努力をしているであるとか、本当にいろんな経営に関する内容でこちらがやってることをお答えしているような状況です。

以上です。

○11番（坂口久信君）

太良町は幸いにして公立であるけれども、そこその状況で推移しとると思いますね。そいけん、視察に来られると思います、建て替えとかなんとかで。

そこで、事務長に、今後の太良町の課題も含めてどのように持っていった方がいいのか、あなたの考えを教えていただければと思います。

○太良病院事務長（井田光寛君）

お答えします。

人口減少が進んでいる太良町ですけど、2040年ぐらいまでを一つの区切りとして、高齢者人口というのは全然そこまで減少しません。ということは、医療・介護のニーズは、今と変わらないと考えております。そこを守っていくために、今のスタッフの数、それで今の医療の提供状況、そこら辺は今をきちっと維持をしていく、そこが大切かと思っています。本当に新しいことをどんどんやるという状況ではなくて、今の状況をきちっと維持して住民サービスが落ちないようにスタッフを確保しながら続けていくということが、まずは大切かと思っています。

それで、どうしても在宅医療・介護というのが今後増える見込みがありますので、そのあたりのほうは、先ほど内科の医師の増員もしましたけど、そういった方面に目を向けた増員でもありますので、力を入れていく必要はあると考えております。

以上です。

○1番（大鋸美里君）

山口議員の質問にちょっと関連ですが、これは病院というよりも町のほうにという形になるかと思うんですが、今小児科医の方が週3回来られてるというそういった現状、週2回、火曜日と木曜日はいらっしやらないということなんですが、これはある意味、何と申しますか、危機であり、チャンスと捉えて、お母さんたちからしたら、いらっしやらないから子供たちの健康とかにより視線が行くという、そこをちょっと逆手にとって日々の生活を底上げしていくような、そういった行政のバックアップというのを両輪でやっていくというのも、健康度が上がるというところでいいのかなと個人的に思っているんですよ。

今後お医者さんが確保できるかどうか分からないというのは恐らく今後も続いていくとは思うので、そこに視線を向けるということのももちろん一つ大事ですけど、それとともに私たちの日々の生活を見直していく、免疫力を上げていくとかですね。

もともと子供たちというのは、昔は37度台の平均体温で、高かったそうですね。でも、今は生活のスタイルが変わって、36度とか、どうかしたら35度台の子供さんがいるとかということもあるそうなんです。そうすると、免疫力というのは37ぐらいで、38度以上上がると、がん細胞は死ぬんですね。なので、熱を出すということはすごく大切なことで、今熱を出せない子供もいるとかそういうこともあったりするので、こういった基本的な知識をお母さんたちにちゃんと伝えていくというような、そういう政策を何か盛り込んでいくことによって、お母さんたちの日々の生活の不安とか、何かあったらもちろん病院には行くとは思いますが、家の中でどう過ごすかというところがまた変わってきて、それがまた子供たちへ還元されて、健康、医療費の削減とかに先々つながっていくというような、そういった何かプランと申しますか、そういうのも少し取り入れていくことも、今後この町では必要になってくるんじゃないかなというふうに思います。

担当課の中溝課長はすごく笑いが得意だと存じ上げてますので、そういった一人一人ができることというのはあるんですね。なので、何かわざわざどこから呼んできて話をしてもらうとかというよりも、町の中にいる人材を使ってそういった、やっぱり町民さんって、知ってる人が話したりするというのはすごく親近感が持てて、近づけたり楽しくなったりするのはありますので、そういった人材を活用していく。そして、町内での関係人口を増やしていく。それで、やっぱりお母さんたちのコミュニティーをつくっていくというような、そういうことも。

○議長（江口孝二君）

質問の途中ですが、病院に関する質問をお願いします。

○1番（大鋸美里君）

すいません。

そういうところで、病院と両方というところで思っておりますが、もしよかったら、町のほうでどういうふうな考えがあるのかをお聞きしたいです。

○健康増進課長（中溝忠則君）

お答えいたします。

議員も御承知のとおり、議員も以前看護師ということで本業をされてる経験があられますけど、私が今課内で話してるのは、先ほど言われた日頃から家庭のほうで子供を小さいときから、そういった健康に関する運動じゃないですけど、それを家庭でやる。それをやるのが一番いいんじゃないかなと。それで、そのやることについては、何か冷蔵庫にチラシじゃないですけど、毎日やるカレンダーじゃないですけど、運動ですね。子供がやる運動、親が、大人がやる運動、それを毎日やるというのを習慣づければいいのかと思います。

以上でございます。

○議長（江口孝二君）

質疑がないので、質疑を終了します。

討論の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

討論ないので、採決します。

議案第29号 令和7年度町立太良病院事業会計予算について、本案に賛成の方、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（江口孝二君）

起立全員。よって、本案は原案どおり可決されました。

日程第8 閉会中の付託事件について

○議長（江口孝二君）

日程第8. 閉会中の付託事件についてを議題といたします。

このたび各常任委員会委員長、議会運営委員会委員長からお手元に配付しました別紙付託申出書のとおり、閉会中もなお継続して調査したい旨の申出がっております。

お諮りします。各委員長から申出があったとおり、閉会中の継続審査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

異議なしと認めます。よって、委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査とすることに決定いたしました。

追加議案がありますので、事務局に配付させます。

〔資料配付〕

○議長（江口孝二君）

配付漏れはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

お諮りします。ただいま配付いたしました議案を日程に追加したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

異議なしと認めます。よって、日程に追加することに決定しました。

追加日程第1 議案上程

○議長（江口孝二君）

追加日程第1．議案の上程。

町長提案の議案第30号を上程いたします。

町長の提案理由の説明を求めます。

○町長（永淵孝幸君）

議案第30号は、監査委員の選任についてであります。

本案は、令和7年3月31日をもって辞任する山崎朝彦氏の後任として川崎義秋氏を選任したいので、地方自治法第196条第1項の規定に基づき議会の同意を求めるものであります。

住所は太良町大字糸岐770番地、生年月日は昭和32年4月22日でございます。

以上です。

○議長（江口孝二君）

町長の提案理由の説明は終わりました。

追加日程第2 議案第30号

○議長（江口孝二君）

追加日程第2．議案第30号 監査委員の選任についてを議題といたします。

質疑の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

質疑がないので、質疑を終了します。

お諮りします。本件は人事案件でございますので、討論を省略し、採決したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

異議なしと認めます。よって、討論を省略することに決定します。

採決します。

議案第30号 監査委員の選任について、本案に同意することに賛成の方、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（江口孝二君）

起立全員。よって、本案は原案どおり同意することに決定いたしました。

追加日程第3 発議第1号

○議長（江口孝二君）

追加日程第3．発議第1号 太良町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

お諮りします。発議第1号につきましては、全議員の提出によるもので、内容も判明いたしております。よって、会議規則第37条第2項の規定により、提出者の説明を省略したいと

思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

異議なしと認めます。よって、提出者の説明を省略することに決定しました。

重ねてお諮りします。質疑、討論を省略し、採決したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

異議なしと認めます。よって、質疑、討論を省略し、採決します。

発議第1号 太良町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例の制定について、本案に賛成の方、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（江口孝二君）

起立全員。よって、本案は原案どおり可決されました。

今期定例会の会議に付されました事件は全て議了いたしました。よって、本日をもって閉会したいと思います。

この際、申し上げます。

今期定例会中の質疑、質問、答弁などの発言につきましては、適宜会議録を調査し、不適切な発言があった場合には、議長において善処することを承認願います。

お諮りします。本会期中に議決されました議決事件の条項、字句、数字、その他整理を要するものにつきましては、会議規則第43条の規定に基づき、その整理を議長に委任されたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（江口孝二君）

異議なしと認めます。よって、条項、字句、数字、その他の整理は議長に委任することに決定しました。

一言お礼申し上げます。

今期定例会は、去る3月6日開会以来、本日まで13日間にわたり、議員各位には令和7年度当初予算をはじめ条例等31件の重要案件について、長時間熱心に調査、審議を尽くされたことに対し、深く敬意を表します。皆様の協力によりまして、ここに全ての議案が議決できましたことを御同慶に存じます。

これをもちまして令和7年第1回太良町議会定例会第1回を閉会いたします。

午前11時48分 閉会

以上の会議の次第は、職員の記載したものであるが、その内容の正確であることを証するためここに署名する。

令和 年 月 日

議 長 江 口 孝 二

署名議員 待 永 るい子

署名議員 竹 下 泰 信

署名議員 田 川 浩